

巻頭言

部会創立50周年を 迎えて

資材部会長 吉川 徳雄
天龍工業(株)・代表取締役社長



資材部会部会長を仰せつかっております天龍工業(株)の吉川です。

日頃より部会員の皆様には、部会事業に対しご支援、ご協力をいただき厚く御礼申し上げます。また架装メーカーである正会員の皆様には、資材部会への多大なるご支援、ご理解を賜り、誠にありがとうございます。この場をお借りして心より御礼申し上げます。

資材部会50周年

資材部会は皆様のご支援、ご協力をいただき、本年50周年を迎えました。

現在、部会の記念事業として部会の年史制作に取り組んでおります。過去の資料を振り返りますと、これまで部会事業に携わってこられた方々の思いが伝わり、胸を熱くすることが多々あります。

車体工業の近代化が進むにつれて、架装メーカーと車体資材部会メーカーとの強固な協力体制がもたらされ、1965年(昭和40年)に立松車体工業会会長より車体資材部品の製造業者を準会員に迎え入れることが提唱され、資材部会が発足となりました。当時の会員数は約80社でした。初代部会長には当時の泰平電機(株)社長の高木氏が就任されました。部会組織は各業種から選出された約20名による幹事会が構成され、特装、特種、トラック、バス、小型の5部会に対応した形での分科会も設置されました。

ネットワーク活動

資材部会を構成する会員会社は中小企業から大企業に至るまで様々で、業種も多岐にわたっており、まとまりにくかったため、1996年には当時の福西部会長により「ビジネスネットワーク」が提唱され、分科会も内装、電装機器・装置、車体用部品、ゴム・樹脂、材料、塗料・フィルムの6分科会に変更しグループによるネットワーク活動に入りました。更に2001年には特別委員会を設置して分科会活動を集約し、内装分科会、部品分科会、材料分科会の3分科会にまとめ現在に至っております。

ネットワーク活動の主なものは各部会との専門分野を元とした共同事業です。2015年度には、トラック部会

と荷台のシーリング材の比較試験の取組みに関する提言、「Uボルト」の共通化、推奨品の選定、推奨規格の設定、バン部会と「再帰反射材の貼付方法」のJABIA規格化、またバス部会のワンマン機器委員会とバスにおけるJABIA規格の制定、改定等を随時行っております。

資材部会会員のPR活動としては、機関誌「車体NEWS」を活用して会員会社と製品の紹介を継続して取り組んでいます。その他、難燃性内装材のJABIA素材登録では燃焼性試験実態調査を推し進め、本年度で全19事業者の調査が完了予定となり、難燃材製品の安全に対する信頼をしていただけるよう取り組んでおります。

BUS WORLD

本年はジェイ・バス協会会館との合同でコルトレイクにて開催されたBUS WORLD(※)の視察も実施し、中国製バスの欧州市場での台頭や電気バス等の欧州の環境への取組みなどを目の当たりにしました。

弊社のことで恐縮ではございますが、このBUS WORLDには唯一の日本企業として出展させていただきました。

グローバル化が叫ばれて久しい昨今、バスの業界においても海外調達の波は確実に押し寄せてきており、世界目線から見た我々の立ち位置を再確認し、社内の若い世代が世界観に触れる良い機会となりました。世界の中において十分通用する部分、学ばなければならない部分、改めて学ぶことの多い初出展となりました。

最後に、部会活動として事業計画に基づく活動を推進し、他部会との交流も随時実施して行き、資材部会の皆様のご協力を頂きながら、バス業界の発展に寄与して行きたいと考えております。

今後、更に架装メーカー7部会の方々と連携を密にし、これから先10年、50年と大きな「ビジネスネットワーク」を築いていけるよう取り組んで参ります。

※ BUS WORLD … ベルギーのコルトレイクで奇数年の秋に開催されるバス並びにバス関連の部品・用品の見本市